

常緑樹林包碧湖
 深拝怪龍大権現
 裏鬼門除大祈禱
 心身爽快如洗面

冬遊箱根

常緑樹林包碧湖

深拝怪龍大権現

裏鬼門除大祈禱

心身爽快如洗面

折り折りの記 (99) 波多野 重雄

市制百年箱庭城址高尾山

八王子は大正六年九月一日、人口四二、〇四三人の「市」が誕生。今年百周年(中核市)を迎えた。当時の面積は七・三km²、予算一万八千円。浅川町外八村が合併し、現在総面積は一八・六・三八km²、人口五六三、六二二人(八月末) 予算、九七・一億円。昭和二十年八月二日未明、B29の八王子空襲百六十九機が焼夷弾投下。市の八割が焼失した。死者三百五名に冥福。富士森運動場にて全国都市緑化フェア、全国ラジオ体操会を開催、ブルーインパルス航空ショーや富士森公園の秋色箱庭八王子城址や、高尾山の溢れる紅葉が百周年を飾った。

(高尾山健康登山の会々々長)

厚木市 荒井 一雄

「富士箱根

伊豆国立公園」かも

冬、箱根に遊ぶ

常緑樹林、碧き湖(芦ノ湖)を包み

深く拝せし、九頭龍大権現様を…

裏鬼門除方位除の太(祈禱)を受け

心身爽快なりき、面(顔)を洗ふが如く…

法の水茎

大正大学講師 高橋秀城

(65)



赤や黄色の鮮やかな秋化粧

「秋」は何色でしょうか。季節を表す七十二候に「楓葉黄」という名称があるように、辺りを見渡せば、色づいた楓や葛が、日本列島を鮮やかに染め上げています。秋と言えば、まずは赤や黄色の秋化粧が思い浮かびます。

白露の
色は一つを
いかにして
秋の木の葉を

「古今集」敏行朝臣(光つて見える露は白一色なのに、どのようにして秋の木の葉を、色々に染めるのだろうか) 秋の異称に「白秋」があります。中国の五行思想で、白色を秋に配置するところから名付けられました。この歌に見える「白露」もまた、秋の気が感じられるものです。

古の人々は、秋の冷たい白露が、木々を色とりどりに染めていると感じていました。

やがて白露に紅葉が映り込めば、光の角度により、白は赤や黄色に照り輝くかもしれません。それはまるで「玉虫色」のような煌めきです。

散らねども

かたてぞ惜しき
紅葉は
今限りの
色と見れば

「古今集」不知(紅葉はまだ散り始めないけれど、散る前から心残りと思うよ。もはやこれ限りの輝いた姿と見えるから)

秋の草木も、少しずつ冬の装いへと姿を変えていきます。紅葉も、いつかは散るからこそ美しいのでしょう。落葉を「惜しむ」心には、「大切に思う」「慈しむ」「愛しむ」気持ちも込められているように感じます。

人も同様に、いつかは終わりを迎えます。兼好

法師(二二八三頃〜二三五二以後)が「世は定めなきこそ、いみじけれ」この世は移り変わるからこそ素晴らしい」と語っているように、「徒然草」第七段、人の命も終わりがあからこそ価値があるのかもしれない。では、季節は春夏秋冬を巡りますが、人はどこへと向かうのでしょうか。

仏教に「六道輪廻」という言葉があります。「六道」とは、「地獄」「餓鬼」「畜生」「修羅」「人」「天」という六つの迷界を指し、「輪廻」とは、ぐるぐるとして生死を繰り返すことを意味します。人によって異なる世界へ旅立つと言われます。

ですが私たちは、どの世を通って生まれて来たのかも、次の世で六道に生まれ変わることになるのかも分かりません。

平安時代の説話集に、死後の出来事を語った次のような話があります。

今となっては昔のこと。奈良の東大寺に蔵満とい

う一人の僧侶がいました。ある時、人相見と出会い、占ってもらったところ、「あなたはとても短命だ。長生きしたければ、菩提心(仏道修行を行おうとする心)を起こしなさい」と言われます。

これを聞いた蔵満は、嘆き悲しみ、今まで以上の苦行に励みました。それは、毎日行道して一心にお経を読み、日課として地藏菩薩の宝号(名前)を、百八遍お唱えするところでしたが、蔵満が三十歳になったとき、突如として病にかかり、あつと言う間に死んでしまいました。すると、目の前に青い服を着た冥途の使者が二、三人やって来て、怒りの形相で蔵満を捕らえたのでした。

蔵満は大声で叫びました。「私は日頃から地藏菩薩を信じている者です」と。しかし役人は「証拠が無いではないか」と言いつつ、詰め寄ります。

その時、一人の小僧が

突然に現れなりました。その姿は、厳かで麗しく光を放っています。同じような五、六人の小僧もおられ、さらにまた、三十数人の小僧が左右に列なっています。気高く穏やかに、皆合掌をしておいででした。

上席の菩薩が蔵満に語りかけました。「私は、そなたが毎日念じている地藏菩薩である。いつも、そなたを見守っているのだ。此度は前世の因縁によつてここに召されたが、すぐに人間界に戻りなさい。これからも修行を続けて、もう二度とここに来てはならぬぞ」と言いつて聞かせるので、再び生き返つたのでした。

【今昔物語集】
 死後の蔵満の前に立ち現れたのは、「六道能化」(六道の人々を救う者)とも称される地藏菩薩でした。五、六人の小僧とはお墓の入り口などに居並ぶ「六道蔵」だったのでしようか。さらには多くの小僧さんたちも付き

随つています。日頃から地藏菩薩を信じていた蔵満だったからこそ、その叫び声を真先に聞きつけ、大勢で駆け付けてきてくれたものと思われま

迷ひ行く
深き閻路の
渡り川
誠の瀬には
君のみぞ立つ

(『新拾遺集』慶政上人)
 (さ迷ひ歩く、死出の旅)

お地藏様は、いつも私たちを見守ってくださっているのを考えていたら、なことを考えていたら、路傍に佇むお地藏様に、秋の紅葉に負けないくらいの、真つ赤な頭巾と前掛けをお付けしたくなり

(栃木北部教区普濟寺)

熊本地震災援金についての御礼と報告

平成二十八年に発生いたしました熊本地震の被害による被災地復興のため、高尾山では境内に募金箱を設置しており、大勢の御参拝の方々から多大なる御支援を賜りましたこと、謹んで御礼申し上げます。

十月十三日、菅谷執事長が八王子市役所を訪れ、石森市長に皆様からお預かり致しました、義援金の目録を手渡されました。

この義援金は、「熊本城災害復興支援金」として、熊本城の復旧作業のために活用されます。

多くの皆様の心温まる御支援、御協力に重ねて御礼申し上げますと共に、被災地の日も早い復興を御祈念申し上げます。

大本山 高尾山薬王院